

Agriculture

営農

農業知識広場

農へのこだわり

隅友利雪 指導員



立春とはいえども、寒さの続く日々です。こんな時こそ圃場の土づくりや春作を考えて、作業計画を行いましょう。「農は業なり」です。

『モグラ対策』



モグラによる被害のほとんどは地中に作る通り道

(トンネル)によるもので、水田では畦を突き破り水漏れを起こし、畑では土を盛り上げ、農作物の根を傷つけ枯らしたりもします。また、通り道をネズミが通り作物を食べるなどの被害も起こります。

生理生態

●繁殖

3〜5月に交尾、5〜6月に2〜5頭産み、寿命は3〜4年です。

●食性

ミミズ、コガネムシの幼虫、カタツムリ、クモ、ヤスデ、カエル、時にはヘビ、ネズミなどを食する食肉獣です。1日に

〜知っててよかった〜

自重の半分から同量以上必要とします。

●活動習性

嗅覚、触覚、聴覚が鋭く、朝夕の活動が盛んで、1日にトンネルを数十メートル掘ります。主な生活の場は、頻繁に通る「本道」とめったに通らない「支道」で形成され、範囲は数十メートル四方といわれます。本拠となる巣室は土手などに設け、そこから2〜3本のトンネルを掘り、危険が近づくとそこから逃げます。

トンネルを踏みつぶしてみても、しばらくたつて元のとおりになっていけば、本道と考えられます。土の盛り上がった場所には遊びの穴で、通路ではありません。

主な防除

●圃場侵入防止

臭いで追い払う方法で、小面積の圃場であれば、周囲に深い溝を掘り、スギヤマツの葉で壁をするようにし、乾かな

いうちに土を戻します。

●音や振動

撃退用の発信器や風車を設置します。風車は、ペットボトルなどを使って自

●捕獲器

設置しやすいパイプ式(筒状)がよいでしょう。本道に設置しますが、向きに注意しましょう。

また捕獲器の設置は次の事項に注意してください。

- ① 手袋をし、人間の臭いをつけない
- ② 捕獲器を土へ擦り込んで臭いを消す
- ③ 向きのある捕獲器は背中合わせに設置する

モグラは野生動物なので、農業活動での被害が捕獲の前提となります。戻ってこれない場所、農業に被害を及ぼさない場所に逃がしましょう。



農機大展示会のお知らせ

【日時】

平成28年2月18日(木) 9:00~16:00
 19日(金) 9:00~16:00
 20日(土) 9:00~15:00

【場所】

JA全農ひろしま
 JA西日本営農技術センター
 東広島市河内町入野1631-13



ご来場の方

●来場記念粗品進呈!(1戸に1つ) ●太陽耕うん爪 2割引! ※一部対象外

お問い合わせ先

豊平農機センター	TEL 0826-83-0550
湯来農機センター	TEL 0829-86-0613
白木農機センター	TEL 082-828-1392
佐東農機センター	TEL 082-873-4115
芸北農機センター	TEL 0826-35-0215
戸内農機センター	TEL 0826-32-2211

タマネギのべト病

毎年発生している圃場では、2月頃から防除して下さい。また、気温が高くなる4月〜5月が多発するため、この頃2回目の防除を行って下さい。

今月の農作業